



The 2nd FIG Young Surveyor Conference 他、参加報告

～History of FIG Young Surveyor Network と日本の青年測量者活動～

Young Surveyors Network Asian Pacific
Japan Manager 藤井 十章

世界測量者連盟(FIG)における青年会(Young Surveyors Network)が誕生したのは2006年のドイツミュンヘン大会で、当時は学生による会費がきっかけになりました。また、2007年の香港 Working Week において、作業部会 Working Group として立ち上がり、その時に掲げられた YSN の目的は以下の3点であります。

- ◆ FIGの活動において、若い専門家たちの参加がより多くなるように追及している。
- ◆ つながりを通して、若い専門家がキャリアを積める援助を行う。
- ◆ 学生も含む青年の測量専門家と委員会理事の間の信頼関係を築く。

2010年のシドニー大会で、2010-2014年の間、就任した Kate Fairlie 青年会長は、当時普及し始めた Web site, Twitter, Facebook などの SNS を利用し、若い測量者の参加を募っていました。

日本青年測量者としての参加のきっかけ

シドニー大会に出席していた、日本土地家屋調査士会連合会の理事から、YSN の立ち上げの情報を聞きつけた私は、インターネットを通じて、YSN の Facebook コミュニティに参加することにしました。(当時は、170名程度でしたが、2014年7月25日現在では、3907名の参加する巨大グループに成長しています。)翌年の2011年のモロッコ大会では、Work Shop 開催となっていました。当時、会場近辺での爆弾テロ事件があり、参加見送りの結果になりました。

一方、FIGの関連事業ではなく、地域イベントとして、韓国、台湾、日本で、地籍(ここでは Cadastre) あり、地籍調査のことでない)に關しての研究シンポジウムが2年に1



度、各国で開催することとなり、2010年には、国際地籍シンポジウム(ICSC)と名し、台湾での第7回大会となっていた。その大会で大韓地籍公社の研究員などと交流を開始していた。

2012年のローマ大会において、初めて、The 1st FIG YSC(Young Surveyors Conference)が開催され、韓国の李賢紀氏とともに、参加呼び掛け、120名を超す参加者、40カ国の参加国の青年測量者が一堂に会しました。



2012年のYSCのテーマは「Knowing to create the future」でした。テーマ全体を通して、どのように参加者を増やしていくのか、FIGとともに何ができるのか、FIGに何をしてほしいのかを考え、発表しました。その他、各国の若い青年者が研究を行っていることの発表や、テーマごとのディスカッションを通じて、数多くの国の問題とその解決アプローチについて学び、知識の共有を行いました。

2012年は、東日本大震災が発生した年であり、諸外国に多くの教援をいただいたことから、大会の終わりに感謝のスピーチを行いました。

FIG Congress 2014年次大会における第2回青年大会

ローマ大会以後、各地域において、青年ミーティングが開催され、昨年10月ヨーロッパ大会、今年には、北アメリカ大会とより多く集まれるように、開催されています。マレーシアにおける青年大会も、この節目にあたり、以下の3つの大きな柱がありました。

- Social Tenure Domain Model(STDM) trainer of Training by GLTN and UN-Habitat

6月13-15日の日程で開催され、日本の参加者は、残念ながら居ません。

社会的土地保有に関する問題に対する領域モデル(STDM)は、貧困層におけるスラム街での土地占有問題を解消するためのツールで、実態把握から、政策の決定及び法整備までを含んだツールです。GISやその他のクラウドシステムウェアを通じて、どこに、どのような家族構成でなぜ居住するようになったのか、どこに、どのくらいの人の移住が、いつまでに必要であるか、元々の地権者とのトラブルと法整備を行うのかを政府と主要な機構と一体となって実行するものです。

私が思う日本におけるこのツールの発展として、大震災における被災地域を、仮設住宅を含め、被災時にどのような人口移動があるのかを瞬時に実態調査把握をし、高台移転などの社会保障とともに防災計画と人、土地との関係を解決するツールと

なれます。日本における STDM の研究者は残念ながら、一人もいません。しかし、世界銀行東京支社誕生をきっかけにした、防災ハッカソンなどの ITC を利用した防災に対するアプローチなどの活動は、STDM の概念により近いものであると思います。

● The 2nd FIG Young Surveyor Conference

第2回目の開催となった青年大会、

- 参加者185名
 - 国46カ国
 - プレナリーセッション3名
 - 発表10名
- となりました。



内容:

現在FIGがどのようなことに注目して、何に取り組んでいるのかという説明を行う各コミッションによるセッション以下テーマ

1. Surveying the 99%: Engaging the need
2. Fit for Purpose Land Administration - Debate
3. Surveying the global agenda - YS role

その他、青年研修者による研究成果の発表、震災、教育システム、治水などをテーマとした発表及びディスカッションと地域交流パーティーなどが行われました。各テーマセッションにおきまして、日本の東北の震災の事例を紹介し、被災地で起こっている問題及び変動がパラメータによる変化では、現場に適合できないこと、そして地形の考慮や地域の造成工事の特色などあらゆるものが、地形の変化に影響を与えていること紹介し、大災害での測量者の役割についてのテーマで発表しました。



また、時期の2014-2018年の青年会長は、エヴァ・アンガーさん(オーストリア)が就任し、ポーラ・デジストラさん(オランダ)秘書として活躍することになりました

(写真左:エバ、写真右:ポーラ)



後半には、YSNの3つ目標の1つである「学生も含む青年の測量専門家と委員会理事の間の信頼関係を築く」というテーマで、各国の政府関係機関などの重役が訪れ、各国の青年会環境についての話が行われた。これは、ローマ大会以降、FIGのJohn Hohol理事、Kate前会長、Eva会長に日本における活動を報告・相談して、実現している。日本のコミッショナーへの青年会構築要望を発言したところですが、今後の日本の測量者の教育及びこういったコミュニティへの関与が拡大するように願っています。

● The 1st Asia Pacific Young Surveyors Meeting[YSNAP]

アジア太平洋地域の以下18カ国

- i. マレーシア
- ii. オーストラリア
- iii. ブルネイ
- iv. カンボジア
- v. 中国(香港)
- vi. フィジー
- vii. インドネシア
- viii. 日本
- ix. モンゴル
- x. ネパール
- xi. ニュージーランド
- xii. フィリピン
- xiii. サモア
- xiv. シンガポール
- xv. 大韓民国
- xvi. ウズベキスタン
- xvii. オーストリア (青年会長招待)
- xviii. オランダ (青年会秘書招待)



各国のカントリーレポートからはじまり、アジア太平洋地域における青年測量者たちが、お互いにどのように測量者として高めあえるのか環境を構築するにはどうしたらいいのか話し合いが行われた。テクノロジー、ファンド、教育環境や、各国の制度意見交換など、様々な地域の連携を今後行って行くとともに、青年会形成に際しても発展途上である、国も少なくないため、YSNAP(イズナップ)と名したグループが中心となり、各国で、ネットワークの拡大を約束した。



TEO 会長と日本青年測量者団

日本青年測量者団は、6名でした。FIGYSN で青年測量者として規定している

- ・35歳以下であること
- ・大学などの専門機関学校を卒業後10年以内

という規定を超えている者（私も含めて）ではありますが、全国に24箇所にある青年土地測量調査士のグループを中心に声をかけ、参加団を結成しました（※1）。17歳の高校生で、測量士補の資格を取得し、お父さんの測量作業を手伝っている清水結太くんをはじめ、2年前に1人で参加した大会から、全国から参加できたことが非常に成果であると思っています。（彼は、FIG Congress 2014の全大会の中で最年少測量者であり、最後のアセンブリセッションにおいても、TEO 会長から話で紹介されていました。）

今後は、隣国の韓国・台湾の青年会構築に関してのお手伝いや、日本国内での学生及び測量者としての教育環境及び、これから測量者を目指そうとする人たちに FIG YSN へ多く参加してもらい、また、青年会議を日本で開催するという夢に向かって、その環境づくりを目指していきたいと思っています。最後になりますが、発表する機会を与えていただきました FIG 関係者及び日本測量者連盟の役員の方々にこれ以上ない感謝申し上げます。

※1 各都道府県の若土地測量調査士年調査士会形成に際してのアプローチは、FIG Congress 2014 のテクニカルセッション、藤井十章のフルペーパーを参照ください。

参考

FIG
<http://www.fig.net>

FIG Young Surveyor Network
<http://www.fig.net/ys/>

FIG Congress 2014 Report
<http://www.fig.net/news/fig2014/index.htm>

The 2nd FIG Young Surveyors Conference Report
http://www.fig.net/news/fig2014/2nd_YSC_Report.pdf

The 1st Asia Pacific Young Surveyors Meeting Report
http://www.fig.net/news/fig2014/1st_FIG_YSN_AP_Meeting_Report.pdf

STDM trainer of training Report
http://www.fig.net/news/fig2014/STDM_Report.pdf

Hack Pad for YSNAP
<https://hackpad.com/Existing-Young-Surveyors-Networks-in-Asia-and-the-Pacific-57D0bbF5oJw>